

Tokyo Philharmonic Orchestra

Season 2025 subscription series 東京フィルハーモニー交響楽団

Booklet



10 2025

English pages inside



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
国境を越え未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

.....
2025シーズンのプログラム表紙のテーマは「旅」。
東京から世界へ羽ばたくオーケストラをイメージしてハラダチエさんのイラストでお届けします。

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten Mobile

MARUHAN

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第1024回オーチャード定期演奏会

10月5日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第1025回サントリー定期シリーズ

10月16日(木) 19:00開演 サントリーホール

第174回東京オペラシティ定期シリーズ

10月20日(月) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

10
/5

10
/16

10
/20

指揮：チョン・ミョンファン

ピアノ：小曾根 真*

コンサートマスター：近藤 薫、三浦章宏、依田真宣

バーンスタイン：

『ウエスト・サイド物語』より「シンフォニック・ダンス」(約22分)

1. プロローグ 2. サムウェア 3. スケルツォ 4. マンボ 5. チャチャ
6. 出会のシーン 7. クール〜フーガ 8. ランブル(決闘) 9. フィナーレ

ガーシュウィン：

ラプソディー・イン・ブルー* (約24分)

ー 休憩 (約15分) ー

プロコフィエフ：

バレエ音楽『ロメオとジュリエット』Op. 64 より (約45分)

モンタギュー家とキャピュレット家(第2組曲 第1番)／少女ジュリエット(第2組曲 第2番)／
仮面(第1組曲 第5番)／ロメオとジュリエット(第1組曲 第6番)／
ティボルトの死(第1組曲 第7番)／修道士ローレンス(第2組曲 第3番)／
ダンス(第2組曲 第4番)／百合の花を手にした娘たちの踊り(第2組曲 第6番)／
ジュリエットの墓の前のロメオ(第2組曲 第7番)／ジュリエットの死(第3組曲 第6番)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

| 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura (10/5)



♪ 本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
♪ 演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフのご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
♪ 曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
♪ 演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
♪ 演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。終演後のカーテンコールも、マナーを守ってお楽しみください。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

チョン・ミョンファン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放送響音楽監督および首席指揮者(1984～1989)、パリ・オペラ座バスターユ音楽監督(1989～1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997～2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000～2015)。現在は名誉音楽監督)、ソウル・フィル音楽監督(2006～2015)、シュターツカペレ・ドレスデン首席客演指揮者(2012～)、KBS交響楽団桂冠指揮者(2022～)、クラシック・プサン(釜山コンサートホールおよび同歌劇場)芸術監督(2023～)等を歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。

2022年6月、イタリア共和国功績勲章であるグランドオフィサーの称号を長年にわたるイタリアの文化発展への貢献に対して受勲。2023年3月、イタリア・ミラノのスカラ・フィルハーモニー管弦楽団として初めての名誉指揮者に就任。2027年よりミラノ・スカラ座音楽監督への就任が発表された。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドバイザーに就任、2010年より桂冠名譽指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

10/5

10/16

10/20



©Yosuke Suzuki

ピアノ

小曾根 真

Makoto Ozone, piano

1983年バークリー音大ジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び全世界デビュー。以来、ゲイリー・バートン、ブランフォード・マルサリス、パキート・デリベラ、チック・コリアなど世界的なトッププレイヤーと共演。クラシックにも本格的に取り組み、国内外の主要オーケストラと、バーンスタイン、モーツァルト、ラフマニノフ、プロコフィエフなどの協奏曲で共演を重ねる。2010年、ショパン生誕200年を記念したアルバム「ロード・トゥ・ショパン」を発表、ポーランド政府より「ショパン・パスポート」を授与される。

2014年にはニューヨーク・フィルのアジアツアーに抜擢され、2017年「バーンスタイン生誕100年祭」ではニューヨークでの定期演奏会に出演。アラン・ギルバートの指揮のもと、『不安の時代』とガーシュウィン『ラブソディー・イン・ブルー』を3日連続で熱演し、リンカーン・センターの満場の聴衆から大喝采を得た。このライブ録音は、2018年3月、ユニバーサル・ミュージックより「ビヨンド・ボーダーズ」と題してリリース。以降、サンフランシスコ響、デトロイト響、ラビニア音楽祭(シカゴ響)に招かれるなど、得意とするガーシュウィンの演奏での世界的な地位を確立。2025年秋、チョン・ミョンフン指揮東京フィルとのヨーロッパ・ツアーに登場。これまで、アラン・ギルバート、ラハフ・シャニ、レナード・スラットキンなど世界の名指揮者たちと共演を重ね、高く評価されている。ニューヨーク在住。

<https://www.makotoozone.com/>

楽曲紹介

解説＝小室敬幸

1947年12月にレナード・バーンスタインは「みんなのスープ Everybody's Soup」と題した文章でこう記している。

「どんな民俗的な楽派であっても、ほとんどのアメリカ国民にとっては常にエキゾチックに聴こえてしまう。〔中略〕しかし、ジャズはみんなのものになった。〔中略〕なぜなら無意識のうちに、空気のようなものとなり、みんなのスープとなったからだ。そしてこのはじまりから30年にも満たない間に、私たちのアメリカ音楽は成長していった。ジャズこそが真のはじまりだったのである。だからこそ真剣に覚えていてほしい。あなたたちは偉大な新しい文化の真正なルーツを聴いているのだ」

当時のバーンスタインにとって、ジャズこそがアメリカの国民音楽だった。そして『ウエスト・サイド物語』にジャズとキューバ生まれのルンバが融合したマンボやチャチャを取り入れることで、北米だけでなく中南米の人々にも自分の音楽だと感じてほしいと願っていたのである。

バーンスタイン

『ウエスト・サイド物語』より「シンフォニック・ダンス」

1949年に振付家・演出家ジェローム・ロビンズが『ロミオとジュリエット』を現代化するアイデアをレナード・バーンスタイン(1918-1990)に持ちかけたところから生まれたのが『ウエスト・サイド物語』だ。台本のアーサー・ローレンツが制作陣に加わるも、すぐに頓挫。だが1955年6月頃に再始動して、作詞のステイーヴン・ソンドハイムが加わった4人のチーム——全員がユダヤ系アメリカ人で、セクシャルマイノリティで、うち3人は共産主義を支持していた——によって完成。1957年9月にブロードウェイで初演された。

制作のターニングポイントとなったのは1955年の夏。英国系の白人とメキシコからの移民がぶつかって暴動になったというニュースを新聞で目にしたことをきっかけにして、ロミオをポーランド系の移民2世のトニーに、ジュリエットをプエル

トリコ(アメリカの自治領)から移り住んだばかりのマリアに……という設定が作られた。中南米の人々が登場することでラテン音楽を大胆に取り込むアイデアが生まれ、ミュージカルの組曲版に相当する「シンフォニック・ダンス」(1961年初演)も彩る素晴らしいダンス・ミュージックの数々が生まれた。

第1幕から6曲、第2幕から3曲が抜粋されてメドレーにまとめられている。2つのグループの対立を象徴する「**プロローグ**」(第1幕 第1場)、夢のなかで全員が仲良く過ごす世界を想像する「**サムウェア**」と「**スケルツォ**」(第2幕 第1場)、体育館でのダンスパーティーからトニーとマリアの出会いまでを描く「**マンボ**」と「**チャチャ**」と「**出会いのシーン**」(第1幕 第4場)、決闘の前に落ち着けと自分たちに呼びかける「**クール〜フーガ**」(第1幕 第6場)、リフ(トニーの親友)とベルナルド(マリアの兄)が死んでしまう「**ランブル(決闘)**」(第1幕 第9場)、トニーが撃たれた後に流れる「**フィナーレ**」(第2幕 第6場)(旋律のひとつは、ワグナーによる「愛の救済の動機」のライトモティーフからの引用だ!)で締めくくられる。

[作曲年代] 1960年 [初演] 1961年2月13日 ニューヨーク、ルーカス・フォスの指揮による
[楽器編成] フルート3(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、E♭クラリネット、クラリネット2、バス・クラリネット、アルト・サクソフォン、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3(1番はピッコロ・トランペット持ち替え)、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タン布林、テナードラム、大太鼓、ボンゴ、コンガ、ティンバレス、ドラム・セット、トライアングル、カウベル、フィンガー・シンバル、シンバル、タムタム、ギロ、マラカス、ウッドブロック、チューブブラーベル、グロックンシュピール、ヴィブラフォン、シロフォン、ポリスホイッスル)、ハープ、ピアノ、チェレスタ、弦楽5部

ガーシュウィン ラプソディー・イン・ブルー

ミュージカルの指揮をしていたポール・ホワイトマンは、1924年2月12日に『モダン・ミュージックの実験 An Experiment in Modern Music』と題した公演を企画。目玉となったのは新鋭として注目されつつあったジョージ・ガーシュウィン(1898-1937)の新作の協奏曲だった。ホワイトマンが本当に依頼していたのかは不明だが、1月4日付けのニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙に掲載された記事で「ジョージ・ガーシュウィンがジャズ協奏曲を作曲中」という文章を目にして、ガーシュウィンは大慌て。彼自身によれば18日間(後にはより大袈裟に“10日間”と

発言)で2台ピアノのスコアを完成させ、ビッグバンドに近いポール・ホワイトマン・オーケストラのための編曲はホワイトマンの雇っていた編曲家ファーディ・グローフェが担当した。こうして生まれたのがラブソディー・イン・ブルーだった。

当時のジャズはダンス・ミュージック。踊れるように一定のテンポを保つ必要があると考えられていた。「この誤解を一撃で打ち砕く」というホワイトマンのコンセプトは、ガーシュウインの創作意欲を掻き立てた。当初はアメリカン・ラブソディー(アメリカ狂詩曲)という題名を予定していたが、兄アイラのアイデアによって現在のタイトルに落ち着いたようだ。画家ジェームズ・マクニール・ホイッスラーによる色彩と音楽用語を掛け合わせた絵画のタイトルを真似たのだ。現在演奏されているバージョンは、グローフェがオーケストラのために編曲し直した1926年のバージョンに、出版社の編集者が一部改訂を加えた版である。

【作曲年代】1924年 【オリジナル版初演】1924年2月12日、ニューヨーク、エオリアン・ホールにて

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バス・クラリネット、アルト・サクソフォン2、テナー・サクソフォン、ファゴット2、ホルン3、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、鐘、タムタム、グロッケンシュピール)、弦楽5部、独奏ピアノ

プロコフィエフ バレエ音楽『ロメオとジュリエット』Op. 64より

1917年に勃発したロシア革命の影響でセルゲイ・プロコフィエフ(1891-1953)は長らくアメリカやフランスといった国外を拠点にしていたが、何度かの一時帰国を経て、1936年からモスクワで生活をはじめた。ソ連では芸術家に対して1934年から「社会主義リアリズム」(=前衛的・実験的な芸術は社会主義国家に相応しくないという考え方)が求められていくのだが、フランスで出会った新興宗教キリストチャン・サイエンスの影響で作風が新古典主義へと向かっていたため、自分の創作の阻害にはならないと考えたのだろう。こうした状況のなかで作曲されたのがシェイクスピアの戯曲を原作とする『ロメオとジュリエット』(1935~36)だ。

指揮者チョン・ミョンフンは1993年にロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団と本作から15曲を抜粋して録音しているが、本日はその中から更に10曲に絞った選曲

である。第1曲「**モンタギュー家とキャピュレット家**」は2つの場面の音楽で構成されており、「大公の宣言」は舞台であるヴェローナを治める大公が、いがみ合う両家に“平和を乱すものは死刑に処する”と言いつけ、続く「騎士たちの踊り」はキャピュレット家で行われる荘厳な舞踏会だ。第2曲「**少女ジュリエット**」では彼女がお転婆だが、甘えん坊で愛を欲していることが表現される。第3曲「**仮面**」は、ロメオに変装してキャピュレット家の舞踏会に忍び込もうとけしかける彼の親友マキューシオの音楽。第4曲「**ロメオとジュリエット**」は、この物語の最も有名なバルコニーで愛を語らう場面だ。第5曲「**ティボルトの死**」では2幕の聴きどころとなる、ジュリエットの従兄弟であるティボルトがロメオの親友マキューシオを殺してしまい、それに怒ったロメオがティボルトを殺してしまう場面の音楽をまとめている。

第6曲「**修道士ローレンス**」では、ロメオは修道士ローレンスのもとを訪れて、ジュリエットとの結婚の手続きを頼む。第7曲「**ダンス**」は、第2幕の「5組のカップルの踊り」と「民衆のお祭り騒ぎ」を組み合わせたもの。第8曲「**百合の花を手にした娘たちの踊り**」は結婚式の当日に花をもってくる娘たちによるエキゾチックな踊りで、悲劇を予兆する。第9曲「**ジュリエットの墓の前のロメオ**」と第10曲「**ジュリエットの死**」はバレエの最終幕。ローレンスの助言でジュリエットは仮死状態になる薬を飲んで埋葬されるが、使者が殺されてしまいその情報はロメオに届かず。彼は毒を飲んで死に、仮死状態から目覚めたジュリエットもロメオのあとを追って自死してしまう。彼らの犠牲を心から悔やんだ両家はようやく和解を迎える……。

【作曲年代】 1935年 【初演】〈第1組曲〉1936年11月24日 モスクワ、ポリショイ劇場にて
〈第2組曲〉1937年4月15日 レニングラード、作曲者の指揮による 〈第3組曲〉1946年3月8日 モスクワ

【楽器編成】 ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、テナー・サクソフォン、ホルン4、コルネット、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、グロッケンシュピール、シロフォン)、ハープ、ピアノ、チェレスタ、弦楽5部

こむろ・たかゆき／東京音楽大学で作曲を学んだ後、同大学院では音楽学を専攻。音楽ライター。クラシック音楽、現代音楽、ジャズ、映画音楽を中心に演奏会やCDの曲目解説、雑誌やWEBメディアにインタビュー記事を執筆。また、現在進行形のジャズを紹介するMOOK『Jazz The New Chapter』にも寄稿している。共著に『聴かすぎらいのための吹奏楽入門』『commons: schola〈音楽の学校〉vol.18ピアノへの旅』。桐朋学園大学非常勤講師。

小曽根真：「ラプソディー・イン・ブルー」に関する4つの質問

1. ガーシュウインの「ラプソディー・イン・ブルー」で一番好きな瞬間はどこですか？

多くの人にとって、この曲の象徴でもあるEメジャーの中間部の美しい旋律と和声が一番に思い浮かぶのではないのでしょうか。私にとってもそれは確かに特別ですが、本当に重要なのは、その華麗なメロディが始まる直前の部分です。たとえばラフマニノフの「パガニーニの主題による狂詩曲」第18変奏と同じように。私にとって、その華麗な部分がどれだけ強い響きを持つかは、直前の部分をどう演奏するかにかかっています。特に「ラプソディー・イン・ブルー」のように非常に良く書かれた作品ではなおさらです。

2. この作品を初めて演奏したのはいつですか？

1996年、東京で、原典版オーケストレーションで演奏したのが最初だと思います。弦楽器は非常に少なく、金管とサクソフォンが多い編成でした。

3. 「ラプソディー・イン・ブルー」がもし絵画だとしたら、それはどのような姿でしょうか？

ニューヨークの夜明けにいる人々の姿が浮かびます。その人々こそがニューヨークを魅力的で魅惑的な都市にしているのです。

4. 「ラプソディー・イン・ブルー」にはどのくらいジャズが含まれているのでしょうか？

ジャズの影響が最も顕著なのはどこですか？

私は特にこの曲をジャズ作品として扱ってはいません。確かに、この曲には多くの「ブルーノート」があります。しかし私にとっては、「ブルーノート」音階を用いた、とてもよく書かれた管弦楽作品に聞こえます。だからこそ私は即興を加えて、本物のジャズの精神を吹き込むのです。それは演奏するたびに観客とともに一度も行ったことのない場所へ旅に出るということです。ただし、自分が知っていることやできることをひけらかしてはいけません。そうするとすべてが無意味になってしまう。常に音楽が自分の体を演奏するように委ねなければなりません。それこそが本物のジャズの精神です。音符そのものではありません。

もうひとつ、ジャズを演奏するうえで重要なのは「リズム」です。ジャズにおいては、それが何よりも大切だといっても過言ではありません。例えば、あの有名な美しい旋律のあとに、同じ音を繰り返すセクションがあります。そこでは音楽がすべてリズムになります。その瞬間、私はピアニストからパーカッショニストに変わるのです。これは先ほど述べたことと同じくらい、いやそれ以上に重要なことです。

(2025年8月のメールインタビューより)

東京フィルハーモニー交響楽団 ヨーロッパ・ツアー2025

東京フィルと四半世紀に及び関係を築いてきたマエストロ チョン・ミョンフンと東京フィルのコンビが初めてのぞむヨーロッパ演奏旅行。各地からの招聘公演とベルリンでの主催公演、全8公演に出演いたします。



[出演・曲目]

指揮 チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

ピアノ 小曾根 真* [Aプログラム]

ヴァイオリン マキシム・ヴェンゲーロフ** [B・Cプログラム]



[Aプログラム] バーンスタイン:『ウエスト・サイド物語』より シンフォニック・ダンス
ガーシュウィン:ラプソディー・イン・ブルー *
プロコフィエフ:バレエ音楽『ロメオとジュリエット』より

[Bプログラム] チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 **
ストラヴィンスキー:バレエ音楽『春の祭典』

[Cプログラム] チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 **
プロコフィエフ:バレエ音楽『ロメオとジュリエット』より

[日程・会場]

10月28日(火) フィルハーモニー・ベルリン/ベルリン(ドイツ連邦共和国) [A]

10月30日(木) ブダペスト芸術宮殿/ブダペスト(ハンガリー) [A]

11月1日(土) デ・シンゲル/アントワープ(ベルギー王国) [B]

11月3日(月) アル・オ・グラン劇場/トゥールーズ(フランス共和国) [C]

11月6日(木) カタルーニャ音楽堂/バルセロナ(スペイン王国) [B]

11月8日(土) ウィーン・コンツェルトハウス/ウィーン(オーストリア共和国) [B]

11月10日(月) ルガーノ・アルテ・エ・クルトゥーラ/ルガーノ(スイス連邦) [B]

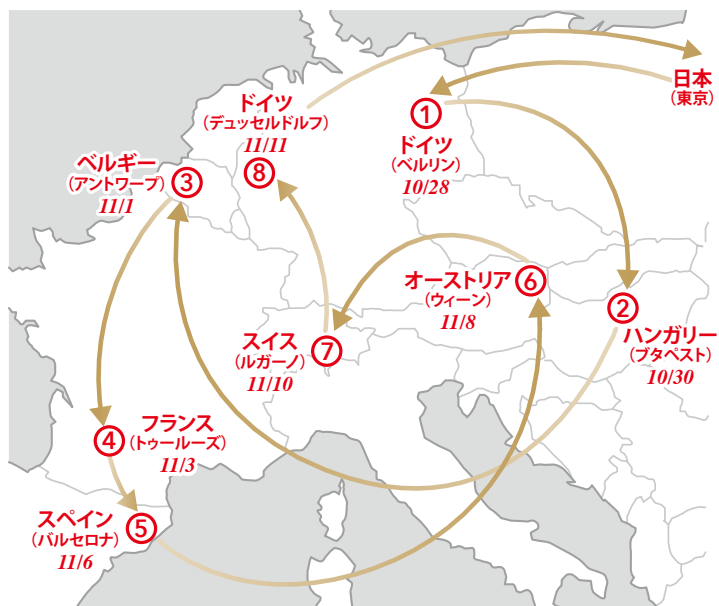
11月11日(火) トーンハレ・デュッセルドルフ/デュッセルドルフ(ドイツ連邦共和国) [A]

ヨーロッパ・ツアー2025 公演地について

東京フィルのヨーロッパ・ツアー最初の公演地はベルリン。クラシック音楽の聖地として日々、質の高い音楽が奏でられるフィルハーモニー・ベルリン(ドイツ、10/28公演)での自主公演に続いて訪れる欧州各地のコンサート会場は、いずれも各都市を代表するオーケストラの拠点として、また世界的な名門オーケストラの訪問地としても国際的な名声を誇ります。



最初の公演地、フィルハーモニー・ベルリン ©Heribert Schindler



ベルリンに続いて訪れるのはハンガリー。ドナウ川沿岸に位置し、その音響と建築で国際的に高い評価を受ける**ブダペスト芸術宮殿**(ハンガリー、10/30)、その後、アントワープの国際的なアートのスペースとなっている**デ・シンゲル**(ベルギー、11/1)、1736年に開場し数回の修復・改装を経て今に息づく歴史的オペラハウス、**アル・オ・グラン劇場**(フランス、11/3)、アール・ヌーヴォー建築の傑作としてユネスコ世界遺産にも登録されている**カタルーニャ音楽堂**(スペイン、11/6)と西欧地域を歴訪し、楽都ウィーンへ。1913年に開館した歴史ある**コンツェルトハウス**(オーストリア、11/8)、スイスとイタリアの中継地点に建つ**ルガーノ・アルテ・エ・クルトゥーラ**(スイス、11/10)、ヨーロッパの日本の首都ともいわれるデュッセルドルフの**トーンハレ**(ドイツ、11/11)と、各地を代表するコンサートホールや歌劇場に、東京フィルはシーズン・プログラムとして招聘を受けています。



アル・オ・グラン劇場
(トゥールーズ／フランス)



カタルーニャ音楽堂
(バルセロナ／スペイン)



コンツェルトハウス(ウィーン／オーストリア)
左:©Herbert Schwingenschloeg



トーンハレ(デュッセルドルフ／ドイツ)

このツアーで東京フィルは「音楽がつなぐ、分断を越えた未来へ——響き合う世界のために」をキーワードに音楽を通じて社会の分断を超え、未来への共生・希望・再生を訴える文化的外交の担い手として、癒し・対話・教育・文化的インフラ形成など、現代社会が芸術に求める価値に応えてまいります。

「東京フィルハーモニー交響楽団 ヨーロッパ・ツアー 2025」に ご支援をお願いします

東京フィルハーモニー交響楽団は2025年秋、ヨーロッパ7か国8都市を巡るツアーを行います。指揮は東京フィルの名誉音楽監督チョン・ミョンフン、ソリストに小曽根真(ピアノ)、マキシム・ヴェンゲーロフ(ヴァイオリン)を迎え、マエストロ チョンに導かれて磨き上げた音楽性と長年のオペラ演奏で培った華麗かつ豊潤なサウンドを、欧州の地で披露いたします。

これまでの皆様のご支援に心より御礼申し上げますとともに、「東京フィルヨーロッパ・ツアー 2025」へのご賛同とご支援をあらためてお願い申し上げます。

ご寄附の方法

◆個人でのご寄附

【クラウドファンディング】8月から11月にかけて、クラウドファンディングを実施しております。詳細は東京フィルWEBサイト等にてご案内しております。

※クラウドファンディングはクレジットカード決済でご寄附いただくことが可能です。



【ご寄附申込書+銀行振込】当団WEBサイトのヨーロッパ・ツアー特設ページより、「ヨーロッパ・ツアー 2025 ご寄附申込書」をダウンロードいただき、メール添付またはFAX、ご郵送にてお送りください。公演会場の「ご支援カウンター」でもご用意しております。

※【寄附申込書+銀行振込】でのご寄附はクラウドファンディング特典の対象外となります。

三井住友銀行・東京公務部(096) 普通預金 3003239

お振込先 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

※振込手数料・通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

【現金によるご寄附】主催公演会場にて現金でのご支援も承ります。詳しくは「ご支援カウンター」までお声かけ下さい。

◆法人でのご寄附・ご協賛

東京フィル広報渉外部にて承ります。特典、顕彰など詳しくは東京フィル事務局広報渉外部担当(下記)へお気軽にお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。詳しくは本冊子の34ページ「ご支援の御礼とお願い」のページもあわせてご参照いただければ幸いです。

お問合せ・お申込み

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当

163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2東京オペラシティタワー8F

Tel: 03-5353-9521(平日10時~18時・土日祝日休)

Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp



ヨーロッパ・ツアー2025 助成・ご支援・ご協賛の御礼とご芳名

今回のヨーロッパ公演につきまして、文化庁、各種企業・団体、個人の皆様から貴重なご支援ならびに応援のお声をいただいております。

ここにご報告と御礼を申し上げますとともに、皆様の引き続いてのご支援を心よりお願い申し上げます。

助成



文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(国際芸術交流))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

ご協賛

株式会社マルハン
日本ライフライン株式会社

株式会社ロッテホールディングス
東急株式会社

特別協力

ヤマハ株式会社
株式会社トンボ鉛筆

ANAホールディングス株式会社

ご支援(法人・個人・クラウドファンディング)

河原 亜弓 株式会社グリーンハウス 三木谷 晴子 A.Mitsumoto K.U.

(9月22日時点・五十音順)

この他、ご支援いただきました方々のご芳名は当団WEBサイト
「ご支援者 顕彰(ご芳名)」ページに記載しております。

<https://www.tpo.or.jp/support/europetour2025name.php>



東京フィルだより

皆様に育てていただき114年

東京フィルがマエストロ チョン・ミョンフンと共に
音楽の感動を欧州に届けます。

クラファン
実施中!



The 1024th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. Oct. 5, 2025, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 1025th Suntory Subscription Concert
Thu. Oct. 16, 2025, 19:00 at Suntory Hall

The 174th Tokyo Opera City Subscription Concert
Mon. Oct. 20, 2025, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

Myung-Whun Chung, conductor

Makoto Ozone, piano*

Kaoru Kondo, Akihiro Miura, Masanobu Yoda, concertmaster

Bernstein:

Symphonic Dances from "West Side Story" (ca. 22 min)

1. Prologue 2. "Somewhere" 3. Scherzo 4. Mambo
 5. Cha-cha 6. Meeting Scene 7. Cool (Fugue) 8. Rumble 9. Finale

Gershwin:

Rhapsody in Blue* (ca. 24 min)

— intermission (ca. 15 min) —

Prokofiev:

Excerpts from the ballet "Romeo and Juliet," Op. 64
 (ca. 45 min)

Montagues and Capulets (Suite no. 2-1) / The Young Juliet (Suite no. 2-2) /
 Masks (Suite no. 1-5) / Romeo and Juliet (Balcony Scene) (Suite no. 1-6) /
 Death of Tybalt (Suite no. 1-7) / Friar Laurence (Suite no. 2-3) /
 Dance (Suite no. 2-4) / Dance of the Girls with Lilies (Suite no. 2-6) /
 Romeo at Juliet's Grave (Suite no. 2-7) / The Death of Juliet (Suite no. 3-6)

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
 Japan Arts Council
 In Association with **Bunkamura** (Oct. 5)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile



©Takafumi Ueno

Myung-Whun Chung, conductor

Honorary Music Director of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He has served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000-2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015), and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden. He has served as the first-ever Conductor Laureate of the KBS Symphony Orchestra since 2022, and as the Artistic Director of Classic Busan since 2023.

In June 2022, he received the title of Grand Officer of the Order of Merit of the Republic of Italy for his contributions to Italian cultural development over the years. In March 2023, he became the first-ever Conductor Emeritus of the Filarmonica della Scala in Milan. His long and outstanding musical career is marked by his recent appointment as Music Director Designate of Teatro alla Scala (from 2027).

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor from 2001 to 2010, and its Honorary Conductor Laureate from 2010 to 2016. In September 2016 he was appointed Honorary Music Director. He is active in education for the younger generation and in promotion of peace, especially in Asia through a variety of musical activities. He currently serves as a UNICEF Ambassador.



©Yosuke Suzuki

Makoto Ozone,
piano

Makoto Ozone, a jazz pianist and composer, graduated summa cum laude from Berklee College of Music in 1983 and made his solo debut at Carnegie Hall the same year. He became the first Japanese artist signed exclusively to CBS and has since been at the forefront of the international jazz scene, collaborating with legends like Gary Burton, Paquito D’Rivera, Branford Marsalis, and Chick Corea. In addition to jazz, Ozone has actively performed classical repertoire with major orchestras worldwide, including works by Mozart, Rachmaninov, and Prokofiev. His 2010 album *Road to Chopin* earned him the “Chopin Passport” from Poland.

In 2014, he joined the New York Philharmonic’s Asia tour, and in 2017, performed in their Bernstein Centennial concerts, which led to the live album *Beyond Borders* (2018). He has since played with leading orchestras such as the San Francisco and Detroit Symphonies and at the Ravinia Festival. Celebrated for his interpretations of Gershwin and Bernstein, Ozone continues to earn international acclaim under conductors like Alan Gilbert, Lahav Shani, and Leonard Slatkin. He is currently based in New York City.

<https://www.makotoozone.com/>

Program Notes

Text by Robert Markow

Bernstein: Symphonic Dances from "West Side Story"

Right from its opening night on Broadway on September 26, 1957, *West Side Story* became one of the biggest success stories in the history of American music. The stunning fusion of Arthur Laurents' book, Stephen Sondheim's lyrics, Jerome Robbins' choreography and Bernstein's music brought new meaning to the universal Romeo and Juliet story, which was transported into a modern urban setting with rival street gangs replacing ancient Veronese families.

At the heart of the work is ballet. *West Side Story* made headlines for its daringly advanced, sophisticated and pervasive use of dance within a musical play, and much of Bernstein's music accompanies a dance of some kind. Various scenes from the play are reflected in these dances, and the symphonic suite provides a ready-made synthesis of Bernstein's "poem to New York" in all its moods: tense, restless, violent, sinister, energetic, dynamic, awesome, and romantic.

The suite of Symphonic Dances was first heard on February 13, 1961 with Lucas Foss conducting the New York Philharmonic. It consists of the following numbers: Prologue (simmering rivalry between the two gangs, the Sharks and the Jets); "Somewhere" (the song of an idealized world where the gangs are united in friendship); Scherzo (a lighthearted continuation of the "Somewhere" sentiment); Mambo (the gangs compete in feverish dances); Cha-cha (to a version of the romantic ballad "Maria," the song Tony sings when he first meets Maria at a dance); Meeting Scene (further development of the "Maria" music at the dance); Cool (the Jets try to "cool it"); Rumble (both gang leaders are killed); Finale (shock over Tony's death and eventual reconciliation as both gangs realize the folly of their ways; strains of "Somewhere" rise out of the now-quiet streets).

5
Oct

16
Oct

20
Oct

LEONARD BERNSTEIN: Born in Lawrence, Massachusetts, August 25, 1918; died in New York City, October 14, 1990

Work composed: 1960 **World premiere:** February 13, 1961 in New York City, conducted by Lukas Foss

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, E♭ clarinet, 2 clarinets, bass clarinet, alto saxophone, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets (1st doubling on piccolo trumpet), 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, tenor drum, bass drum, bongo, congas, timbales, drum set, triangle, cowbell, finger cymbals, cymbals, tam-tam, guiro, maracas, wood blocks, tubular bells, glockenspiel, vibraphone, xylophone, police whistle), harp, piano, celesta, strings

Gershwin: Rhapsody in Blue

It is surely symbolic that George Gershwin was born on one shore of America and died on the other, for his music has been played, embraced, loved and cherished as has that of virtually no other classical composer this country has produced. *Rhapsody in Blue* carries an identity indelibly American, infused with raw energy, jovial abandon, the clamor of a great metropolis, and warmly sincere sentiment. The commission for Gershwin's first major concert work came from band leader Paul Whiteman. Gershwin needed considerable persuasion to accept the commission, particularly since he claimed not yet to have learned how to orchestrate, and since the concert date was already scheduled. But he went through with it, composing it in just three weeks.

Gershwin originally wrote the score for two pianos. Composer and arranger Ferde Grofé arranged the second piano part for a 22-piece jazz orchestra, in which form the *Rhapsody* had its world premiere in New York's Aeolian Hall on February 12, 1924 at a concert led by Paul Whiteman. The *Rhapsody* proved not only to be the highlight of the concert, but catapulted Gershwin to international celebrity status overnight. During the next dozen years, it earned him over a million dollars in sales from sheet music, performance royalties, and records.

In 1926 Grofé scored the *Rhapsody* for symphony orchestra, and in 1942 produced another version, the one most commonly heard today. Over

the years, *Rhapsody in Blue* has been arranged for just about everything imaginable: solo piano, piano duet, eight pianos, harmonica, mandolin, chorus, and much more.

GEORGE GERSHWIN: Born in Brooklyn, September 26, 1898; died in Hollywood, July 11, 1937

Work composed: 1924 **World premiere:** February 12, 1924 at Aeolian Hall in New York

Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, bass clarinet, 2 alto saxophone, tenor saxophone, 3 bassoons, 3 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, triangle, cymbals, bells, tam-tam, glockenspiel), strings, solo piano

Prokofiev: Excerpts from the ballet "Romeo and Juliet," Op. 64

5
Oct16
Oct20
Oct

No playwright's works have been more heavily mined for musical purposes than Shakespeare's, and none of the bard's great tragedies has inspired more compositions than *Romeo and Juliet*. The subject – love – has a lot to do with it, of course, but love is treated in other Shakespeare plays as well. *Romeo* has in addition the heartbreak of the family feud, which acts as a kind of fate that hovers over the “star-crossed lovers,” something beyond their control yet something that orders their destiny. “Mon Dieu,” exclaimed Berlioz, “what a subject! Everything in it seems designed for music.”

In *Romeo and Juliet*, Prokofiev created not only one of his very finest and most popular compositions, but what would quickly rise to become the most successful full-length, three-act ballet score of the twentieth century. The music contains a wealth of memorable themes, passionate lyricism, compelling rhythmic excitement, and a generous measure of comic elements (a quality not often associated with Prokofiev). For various reasons involving backstage politics, the first performance was given not as a ballet but in concert form with piano only in the Beethoven Hall of the Moscow Bolshoi on October 4, 1935. Since no staged performance was in sight, Prokofiev expediently arranged two orchestral suites of seven numbers each (drawn from the total of fifty-two), as well

as a set of ten numbers arranged for solo piano. A third orchestral suite was compiled in 1946. These suites enjoyed some currency before *Romeo and Juliet* was finally staged by the Kirov in 1940. But in the meantime, the honor of the premiere stage production had gone to Brno, Czechoslovakia (now in the Czech Republic), where it was given, without Prokofiev's participation, on December 30, 1938 at the opera house (today the Mahen theater) to an enthusiastic reception.

None of Prokofiev's suites from *Romeo and Juliet* follows the original order of events, and conductors have felt free to compile their own suites. Conductor Myung-Whun Chung has chosen ten excerpts from the three suites and has arranged them in a cogent sequence that approximates the original dramatic outline and progression of moods in the ballet:

Montagues and Capulets – Members of both feuding families strut about the ballroom. A contrasting waltz interlude depicts Juliet dancing with Paris, her betrothed. The return of the opening section is announced by a solo from an instrument rarely found in symphony orchestras, the saxophone.

The Young Juliet – All the mischievousness, skittishness and vivaciousness of the fourteen-year-old girl are admirably captured in this number.

Masks – A swaggering march tune accompanies Romeo, Mercutio and Benvolio, all masked, as they arrive at the ball of the rival Capulets' house.

Romeo and Juliet (Balcony Scene) – The Balcony Scene takes place near the end of Act I. It is night. Juliet, restless and unable to sleep, steps out onto her balcony while down below, Romeo is making his way through the garden to see Juliet, shortly after having met her for the first time at the ball earlier that evening. For what is perhaps the most famous love scene in all literature, Prokofiev poured forth some of his most passionately lyrical music, perfectly conveying the ecstasy of the two lovers.

Death of Tybalt – To magnificent brawl music, Romeo avenges the murder of his friend Mercutio by dueling with and killing Tybalt. Swashbuckling action is followed by a grim funeral march (in 3/4 meter!) to grinding dissonances. The orchestral writing is highly virtuosic, with

5
Oct16
Oct20
Oct

violins in particular required to execute incredible feats of showmanship.

Friar Laurence – Juliet visits the kindly, understanding friar, who provides her with a potion that will simulate death for a few hours.

Dance – Five couples dance in the public square at a festive gathering.

Dance of the Girls with Lilies – An elegant, gently rocking number performed as bridesmaids dance around the sleeping Juliet after she has taken the potion that will simulate her death.

Romeo at Juliet's Grave – In the ballet's final scene, Romeo comes to Juliet's funeral bier. Believing her dead, in despair he takes poison to music of searing, poignant intensity.

The Death of Juliet – Juliet awakes to find Romeo dead at her feet, and stabs herself with his dagger. The curtain falls on the inert bodies of the lovers in a final embrace.

SERGEI PROKOFIEV: Born in Sontsovka (today Krasnoye), department of Ekaterinoslav, Ukraine, April 27, 1891; died in Moscow, March 5, 1953

Work composed: 1935-36 **World premiere:** [Suite No. 1] November 24, 1936 at the Bolshoi Theatre in Moscow [Suite No. 2] April 15, 1937 in Leningrad conducted by the composer [Suite No. 3] March 8, 1946 in Moscow

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, tenor saxophone, 4 horns, cornet, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cymbals, glockenspiel, xylophone), harp, piano, celesta, strings

5
Oct16
Oct20
Oct

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

The Tokyo Philharmonic European Tour October-November 2025

The Tokyo Philharmonic Orchestra will embark on a European tour from October 28 to November 11, 2025. Conducted by its Honorary Music Director, Maestro Myung-Whun Chung, the orchestra will perform in eight of Europe's premier concert halls, bridging cultural ties between Japan and the birthplace of classical music. The tour will launch in Berlin, then continue to Budapest, Antwerp, Toulouse, Barcelona, Vienna, and Lugano, and conclude in Düsseldorf.



Performers

Conductor Myung-Whun Chung (Honorary Music Director)
Piano Makoto Ozone [Program A]
Violin Maxim Vengerov [Program B/C]
Tokyo Philharmonic Orchestra

Programs

- [A] L. Bernstein/ Symphonic Dances from West Side Story
 G. Gershwin/ Rhapsody in Blue
 S. Prokofiev/ Excerpts from ballet Romeo and Juliet
- [B] P.I. Tchaikovsky/ Violin Concerto in D major, Op. 35
 I. Stravinsky/ ballet Sacre du printemps
- [C] P.I. Tchaikovsky/ Violin Concerto in D major, Op. 35
 S. Prokofiev/ Excerpts from ballet Romeo and Juliet

Dates	Venues	Nations	Program
28, Oct, Tue	Philharmonie Berlin	Germany	A
30, Oct, Thu	Müpa Budapest Sold Out	Hungary	A
01, Nov, Sat	De Singel Sold Out	Belgium	B
03, Nov, Mon	La Halle aux Grains	France	C
06, Nov, Thu	Palau de la Música Catalana	Spain	B
08, Nov, Sat	Wiener Konzerthaus	Austria	B
10, Nov, Mon	LAC Lugano Arte e Cultura	Switzerland	B
11, Nov, Tue	Tonhalle, Mendelssohn-Saal, Düsseldorf	Germany	A

*More information will be announced on the Tokyo Philharmonic Orchestra website and SNS as it becomes available.

Breaking news! Season 2026-27 Subscription Series

We are pleased to announce the schedule and conductors for the 2026-27 season regular concerts. Next season, three esteemed maestros, along with highly esteemed guest conductors, will lead the Tokyo Philharmonic in outstanding performances.

For those who purchased season tickets for this season, detailed information about the lineup and instructions for renewing your subscription will be mailed to you. Please check the materials upon receipt.

	Orchard subscription series	Suntory subscription series	Tokyo Opera City subscription series	Conductor [Soloists will be announced soon]
2026	Sun. Jan. 25	Fri. Jan. 23	Closed from January to June 2026	Conductor: Andrea Battistoni (Chief Conductor)
	Mon/Holiday Feb. 23	Wed. Feb. 18		Conductor: Myung-Whun Chung (Honorary Music Director)
	Sun. May 17	Wed. May 13		Conductor: Andrea Battistoni (Chief Conductor)
	Sun. Jun. 21	Thu. Jun. 18		Conductor/Violin: Pinchas Zukerman
	Sun. Jul. 26	Thu. Jul. 23	Wed. Jul. 29	Conductor: Myung-Whun Chung (Honorary Music Director)
	Tue/Holiday Aug. 11	-	Thu. Aug. 6	Conductor: Ken-ichiro Kobayashi
	Sun. Oct. 18	Thu. Oct. 15	Fri. Oct. 16	Conductor: Myung-Whun Chung (Honorary Music Director)
	Sun. Nov. 15	-	Mon. Nov. 16	Conductor: Mikhail Pletnev (Special Guest Conductor)
2027	-	Thu. Jan. 21	Mon. Jan. 25	Conductor/Bassoon: Sophie Dervaux
		Wed. Feb. 24	Thu. Feb. 18	Conductor: Myung-Whun Chung (Honorary Music Director)

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522

(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



東京フィルだより ― 速報! 2026-27シーズン定期演奏会

2025シーズンもたくさんの皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。
2026年1月に開幕する新シーズンの日程・指揮者を以下のとおりお知らせいたします。
来季も東京フィルを率いる3人のマエストロとゲスト指揮者が、選りすぐりの演奏をお届けいたします。引き続き東京フィルの演奏会をお楽しみくださいますよう、お願い申し上げます。

今シーズンの定期会員券をご購入くださいました皆様には、近日、ラインナップ詳細とともに「継続」のご案内を郵送にてお送りいたしますので、ご確認ください。

	オーチャード 定期演奏会 開演15:00	サントリー 定期シリーズ 開演19:00	東京オペラシティ 定期シリーズ 開演19:00	指揮者 (ソリストは追って発表いたします。)
2026年	1/25(日)	1/23(金)	2026年 1月～6月 休館	指揮:アンドレア・バッティストーニ (首席指揮者)
	2/23(月・祝)	2/18(水)		指揮:チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)
	5/17(日)	5/13(水)		指揮:アンドレア・バッティストーニ (首席指揮者)
	6/21(日)	6/18(木)		指揮:ヴァイオリン: ピンカス・ズーカーマン
	7/26(日)	7/23(木)	7/29(水)	指揮:チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)
	8/11(火・祝)	-	8/6(木)	指揮:小林研一郎
	10/18(日)	10/15(木)	10/16(金)	指揮:チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)
	11/15(日)	-	11/16(月)	指揮:ミハイル・プレトニョフ (特別客演指揮者)
2027年	-	1/21(木)	1/25(金)	指揮:ファゴット: ソフィー・デルヴォー (ウィーン国立歌劇場管弦楽団首席ファゴット奏者)
		2/24(水)	2/18(木)	指揮:チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

News & Information

東京フィルの「午後のコンサート」 in Matsumoto《音楽もの・かたり》

日時 11月22日(土)15:00開演 ※東京公演と開演時間が異なります
 会場 キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)
 出演 指揮とお話: 円光寺雅彦 語り: 石丸幹二
 曲目 ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲
 プロコフィエフ／交響的物語『ピーターと狼』
 ロイド＝ウェバー／ミュージカル『オペラ座の怪人』より
 J. ウィリアムズ／子供のための管弦楽組曲『ハリー・ポッターと賢者の石』
 ※曲目は変更になる場合がございます。



料金(税込・全席指定) 一般¥4,000 U25¥2,000(枚数限定・前売りのみ)

チケット問合せ まつもと市民芸術館チケットセンター(10:00～18:00)

[窓口・電話] 0263-33-2200 / [WEB] <https://www.mpac.jp/>

キッセイ文化ホール(9:00～17:00) ほかにプレイガイド

※本公演は東京フィルチケットサービスでのお取り扱いはありません。

主催: 一般財団法人松本市芸術文化振興財団／共催: キッセイ文化ホール(一般財団法人長野県文化振興事業団)／後援: 松本市、松本市教育委員会／制作: まつもと市民芸術館、公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団、プロマックス

メンバー出演情報 ミッドタウン・ブラス・ジャパン Midtown Brass Japan

ついに始動! 互いに共鳴し、求め合う!“最響”の幕開け!

日時 12月6日(土)19:00開演
 会場 東京オペラシティ コンサートホール: タケミツ メモリアル
 出演 金管五重奏Midtown Brass Japan[長谷川智之、尹千浩(以上トランペット)、高橋臣宜(東京フィルホルン首席奏者)、古賀 光(トロンボーン)、佐藤和彦(テューバ)]
 曲目 J.S.バッハ／トッカータとフーガ 二短調 BWV565
 J.S.バッハ／ゴルトベルク変奏曲 BWV988より
 ルトスワフスキ／ミニ・オーバーチュア



クーツィール／金管五重奏曲 Op.65ほか ※曲目は変更になる可能性がございます。

料金(税込・全席指定) S席¥5,500 A席¥3,300 B席¥2,200 U25(引換券)¥2,200

※U-25(引換券)は、一般発売より販売いたします。公演日に25歳以下の方のみ対象です。公演窓口にて鑑賞者ご本人の身分証明書(学生証・運転免許証、マイナンバーカードなど)にて年齢を確認させていただきますので、引換券と合わせてご持参ください。※U-25(引換券)はぴあ、イープラス、ローソンチケットのみで販売します。※未就学児入場不可

チケット問合せ サンライズプロモーション 0570-00-3337(平日12:00～15:00)

Photo Reports 2025年9月のコンサートより

9月定期演奏会には首席指揮者アンドレア・バッティストーニが久々の登場。マエストロ バッティストーニは今年1月よりイタリアの歴史的な歌劇場、トリノ王立歌劇場の音楽監督に就任、ベルギーのワロン王立歌劇場ではコンポーザー・イン・レジデンスに就任。そして2026年からは世界遺産シドニー・オペラハウスを拠点とするオペラ・オーストラリアの音楽監督への就任も決まっています。ますますの充実を聴かせるマエストロの活躍を4公演でお楽しみいただきました。

9月定期演奏会 (9/11, 12, 14)

撮影=上野隆文

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)
コンサートマスター：近藤薫

ピツェッティ／夏の協奏曲
R. シュトラウス／『アルプス交響曲』



首席指揮者アンドレア・バッティストーニ。得意とする大編成の管弦楽でその実力を遺憾なく発揮しました



R.シュトラウス『アルプス交響曲』より。バックステージでは15人の金管楽器奏者によるパンダが力強いファンファーレを演奏（副指揮：山上孝秋）



2つの管弦楽作品で重要なソロを担った奏者たちと終演後に記念写真



9月14日オーチャード定期演奏会のリハーサルは公開リハーサルとして、東京フィルの賛助会員様、定期会員様をお招きしリハーサルの様子をご覧いただきました。最後に集合写真も

第105回 休日の午後のコンサート（9/21）〈二人は魔術師〉

指揮とお話：アンドレア・バッティストーニ ヴァイオリン：村田夏帆* 司会・通訳：井内美香
コンサートマスター：依田真宣

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番

ラヴェル／ツィガーヌ*

バッティストーニ／

コリバス～管弦楽のための幻想的舞踏曲

ラヴェル／道化師の朝の歌

ラヴェル／ボレロ 〈ラヴェル生誕150周年〉



連携協定都市・愛知県刈谷市との活動

東京フィルは2025年度より愛知県刈谷市と連携協定を締結。9月28日に開催された「刈谷市制施行75周年記念 東京フィルハーモニー交響楽団 刈谷公演」に先立ち、8月末～9月にかけて、地域の中学校のオーケストラ・吹奏楽部員を対象としたワークショップを実施しました。本公演の最後に演奏されるエルガー行進曲『威風堂々』第1番ではワークショップ参加メンバーと東京フィルの合同演奏を実施しました。



秋麗の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
 2025シーズンを締めくくる定期演奏会は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンが登場。
 「ロミオとジュリエット」に基づく2作品とガーシュウインの『ラブソフィー・イン・ブルー』を
 ジャズ・ピアニスト小曾根真の卓越した独奏と共にお送りいたします。
 本日の演目は、10月28日より開幕する東京フィルのヨーロッパツアーにおいて、
 最初の公演となるベルリンを皮切りに、ブダペスト、デュッセルドルフでも演奏いたします。
 愛と情熱、そして希望を描いた、躍動感溢れる名曲の数々をお楽しみください。
 皆様のご支援に心より感謝申し上げますとともに、
 今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
 改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 CEO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）		
(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 高野 晋
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 有吉 伸人	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 代表取締役社長COO 富永 満之	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 島井 信宏

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)JERA
代表取締役社長CEO兼COO 奥田 久栄

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 CEO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 グループCEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東京銀座ウェルネス&エイジングクリニック
院長 檜山 和寛

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 齊藤 昌典

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
代表取締役 社長 斉藤 秀親

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 清水 宣明

(株)明治
代表取締役社長 八尾 文二郎

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニアデックス(株)
代表取締役社長 田中 建

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天モバイル(株)
代表取締役会長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
代表取締役社長 天坊 真彦

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 柳井 城作

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(株)鈴木
代表取締役 鈴木 信史

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長 CEO 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓



ご支援の御礼とお願い



昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつその発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みだけでしたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
<https://www.tpo.or.jp/support>

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
 〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
 Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
 Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時～18時)

東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2025年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立114年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは来たるシーズンも、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

オフィシャル・サプライヤー ※	
法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリユード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。
東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。
ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当：星野^{かのまた}・鹿丈)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



フランチャイズ・ホール、事業提携ならびに連携協定について

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携、愛知県刈谷市と連携協定を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022年度より東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、2023年度は8校、2024年度は14校の小中学校を訪問しました。2025年度は東北・東海・関東地区の担当として6月から1月にかけて14校の小中学校を訪問しワークショップとオーケストラ公演を開催予定です。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にに使わせていただきます。



お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時～18時／土日祝休)

9月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

名倉優子、名倉義幸、江藤美香、中野由章、C.K (他匿名希望 9名) (五十音順・敬称略)



特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
Tel: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otake

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

アシスタント・
コンサートマスター
Assistant concertmaster

坪井 夏美
Natsumi Tsuboi

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

小峰 航一◎
Koichi Komine

須田 祥子◎
Sachiko Suda

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki服部 誠◎
Makoto Hattori渡邊 辰紀◎
Tatsuki Watanabe黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa高麗 正史☆
Masashi Korai石川 剛
Go Ishikawa大内 麻央
Mao Ouchi太田 徹
Tetsu Ota菊池 武英
Takehide Kikuchi佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki長谷川 陽子
Yoko Hasegawa渡邊 文月
Fuzuki Watanabeコントラバス
Contrabasses片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki小笠原 茅乃
Kayano Ogasawara岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto小栗 亮太
Ryota Oguri熊谷 麻弥
Maya Kumagai菅原 政彦
Masahiko Sugawara田邊 朋美
Tomomi Tanabe中村 元優
Motomasa Nakamuraフルート
Flutes神田 勇哉◎
Yuya Kanda斉藤 和志◎
Kazushi Saitoさかはし 矢波
Yanami Sakahashiオーボエ
Oboes荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa佐竹 正史◎
Masashi Satake芳野 円香◎
Madoka Yoshino岡村 彩香
Ayaka Okamura杉本 真木
Maki Sugimoto若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashiクラリネット
Clarinets久保田 智巳◎
Tomomi Kubotaアレッサンドロ・
ベヴェラリ◎リリー・リーリン◎
Li-Ling Lee黒尾 文恵
Fumie Kuroo鳥潟 さくら
Sakura Torigata林 直樹
Naoki Hayashiファゴット
Bassoons河野 星◎
Akari Konoチェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata井村 裕美
Hiromi Imura桔川 由美
Yumi Kikkawa森 純一
Junichi Moriホルン
Horns齋藤 雄介◎
Yusuke Saito高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi大東 周
Shu Ohigashi小椋 陽咲
Hisaki Ogura木村 俊介
Shunsuke Kimura佐藤 俊輝
Toshiki Sato田場 英子
Eiko Taba塚田 聡
Satoshi Tsukada豊田 万紀
Maki Toyoda西川 優弥
Yuya Nishikawa山内 研自
Kenji Yamanouchiトランペット
Trumpets川田 修一◎
Shuichi Kawata野田 亮◎
Ryo Noda古田 俊博◎
Toshihiro Furuta杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama箕輪 綾子
Ayako Minowaトロンボーン
Trombones辻 姫子◎
Himeko Tsuji中西 和泉◎
Izumi Nakanishi石川 浩
Hiroshi Ishikawa五箇 正明
Masaaki Goka藤田 恵輔
Keisuke Fujita山内 正博
Masahiro Yamauchiテューバ
Tubas大塚 哲也
Tetsuya Otsuka荻野 晋
Shin Oginoティンパニ&
パーカッション
Timpani & Percussion岡部 亮登◎
Ryoto Okabe塩田 拓郎◎
Takuro Shiota秋田 孝訓
Takanori Akita木村 達志
Tatsushi Kimura鷹羽 香緒里
Kaori Takaba中村 勇輝
Yuki Nakamura縄田 喜久子
Kikuko Nawata船迫 優子
Yuko Funasako古谷 はるみ
Harumi Furuyaハープ
Harp梶 彩乃
Ayano Kaji田島 緑
Midori Tajimaライブラリアン
Librarian塚本 由香
Yuka Tsukamoto柳瀬 茉耶
Maya Yanaseステージマネージャー
Stage Managers稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka大田 淳志
Atsushi Ota古谷 寛
Hiroshi Furuya◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュペーラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホールなどでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、テレビ・ラジオ、インターネット等での放送・配信演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、これまでに3回のヨーロッパツアー、創立100周年記念ワールドツアー、アジアでは2005年に日中韓3か国、2015年に東京とソウルの2都市で日韓国交正常化50周年記念コンサートなど多数開催。近年ではヨーロッパや中東からの招聘を受けるなど、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を、愛知県刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2025, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 114th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano, and Nagaoka City in Niigata, and also cooperation agreement with Kariya City in Aichi.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦 大賀 昭雄	岩崎 守康 山野 政彦	伊東 信一郎 佐治 信忠
副理事長	大塚 雄二郎		鈴木 啓介
黒柳 徹子	小山田 隆		瀬谷 博道
専務理事	田沼 千秋		
石丸 恭一	玉木 林太郎		
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一 岩崎 井織	稲岡 宏司 大田 淳志	塚本 由香 柳瀬 茉耶	伊藤 唯 沖汐 明日香	川原 明夫 鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		鹿又 紀乃	
工藤 真実	大谷 絵梨奈 佐藤 若菜			千木 加寿子	
	村尾 真希子			二木 憲史	
	吉田 結衣			星野 友子	
				松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	瀬尾 勝保	長倉 穰司	細洞 寛
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	高岩 紀子	新田 清枝	本田 詩子
磯部 保彦	小樽 敦子	今野 芳雄	高野 和彦	新田 伸雄	松澤 久美子
糸井 正博	小山 智子	齊藤 匠	高村 千代子	二宮 純	松田 朋子
今井 彰	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	竹林 良	二宮 祐子	水鳥 路
井料 和彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 陽子	野仲 啓之助	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 博文	嵯峨 美穂子	田中 千枝	畑中 和子	宮原 真弓
植木 佳奈	金崎 真由美	桜木 弘子	田村 武雄	玻名城 昌子	山本 友宏
上野 眞行	川人 洋二	笹 翠	津田 好美	福村 忠雄	山屋 房子
生方 正好	木村 友博	佐々木 等	戸坂 恭毅	藤原 勲	吉田 啓義
大兼久 輝宴	黒川 正三	佐野 恭一	長池 陽次郎	古野 淳	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒沢 誠登	清水 真佐子	長岡 慎	細川 克己	脇屋 俊介

〈発行日〉2025(令和7)年10月5日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま倉

〈印刷〉歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪ チケットの座席番号もチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪ 開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

- ・演奏中の許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認ください！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

♪ カーテンコールにもマナーあり！？

- ・全てのプログラムの演奏後、指揮者と演奏者がお客様にステージの上でご挨拶いたします(カーテンコール)。カーテンコールでは、お客様からの拍手や声援が音楽家への最大の賛辞となります。スマートフォンや携帯電話での撮影やSNSへの投稿は、他のお客様の感動の妨げにならぬよう、またプライバシーに充分配慮してお楽しみください。なおスマートフォン以外での写真撮影や動画の撮影ならびに前半プログラム終了時での撮影はお断りいたします。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪



Tokyo Philharmonic Orchestra | Since 1911
Season 2025

